

# 多様な研究大学群の形成に向けて ～大学研究力強化委員会における主な検討事項等～

1

2019年4月に永岡副大臣TFで策定した「研究力向上改革2019」を発展させ、研究人材・資金・環境の一体改革により、我が国の研究力を総合的・抜本的に強化するため、CSTIにおいて「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定。

2

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」も踏まえ、大学の研究力強化を図るため、国公私立大学の研究人材・資金・環境等に係る施策を戦略的かつ総合的に推進。日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、大学ファンドを通じた国際卓越研究大学への支援と、地域中核・特色ある研究大学への支援強化による両輪により、研究力の向上を促進。

3

これらの取組のほか、大学ファンドからの支援に先駆けて始まった博士支援の拡充等もあり、研究人材・資金の取組が加速したものの、日本学術会議からも指摘※されているように、大学における研究環境に係る様々な課題にまだ十分に取組めていない。  
※「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」（2022/8/5 日本学術会議）

4

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定に際して示された羅針盤を踏まえ、各大学がそれぞれのビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるよう、必要な仕組みなどを検討する必要があるのではないか。

5

併せて、振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築するなど、“我が国の研究大学群のあるべき姿”に向けて、必要な取組について議論してはどうか。

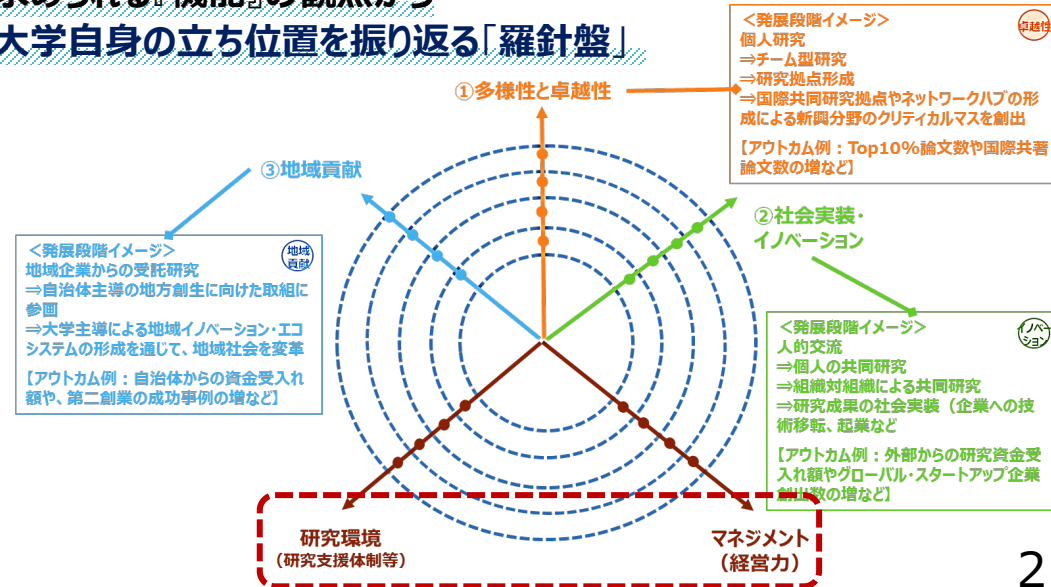
## 国際卓越研究大学の将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準的教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



## 求められる『機能』の観点から 大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」



# 大学研究力強化委員会における主な検討事項等について

4

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定に際して示された羅針盤を踏まえ、各大学がそれぞれのビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるよう、必要な仕組みなどを検討する必要があるのではないか。

5

併せて、振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築するなど、“我が国の研究大学群のあるべき姿”に向けて、必要な取組について議論してはどうか。

○「研究大学強化促進事業」の事後評価で効果が実証された取組や、「創発的研究支援事業」における研究環境改善の好事例に加え、「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2022)」における大学研究力に関わる回答の状況や、「日本学術会議若手アカデミー」の提言等も踏まえ、**適切な研究マネジメント体制の構築や研究環境の持続的向上に向けた課題や方策等を議論**。

○“我が国の研究大学群のあるべき姿(研究大学100年構想)”に向けて、総合振興パッケージで示された「大学自身の取組の強化に向けた具体策」に**充実・追加すべき取組**や、**我が国全体の研究力向上を牽引する研究システム**をどのように構築していくか議論。

例. 流動性が高く、開かれた持続可能な研究環境  
 知の基盤を底支えする高度専門人材を育む研究環境  
 機動的な先行投資や安定的な業務運営の実現  
 目標を明確にした自律型経営組織への転換  
 多様で“厚み”のある研究大学群の形成

⇒ テニユアトラック制度の確立、独立支援の充実、挑戦を促進する制度 等  
 ⇒ 研究者目線の環境改善、コアファシリティの拡充、中規模研究設備群の整備 等  
 ⇒ 大学独自基金の造成、自主財源の確保、個々の研究者依存の脱却 等  
 ⇒ 全学的な研究マネジメント体制の構築(URAや技術職員等を含む)、教職協働 等  
 ⇒ 研究大学の備える要素の明確化、研究大学の状況・成長に合わせた支援の在り方 等

## 経済財政運営と改革の基本方針2023 (骨太の方針)



令和5年6月16日  
 経済財政諮問会議・新しい資本主義実現会議  
 合同会議

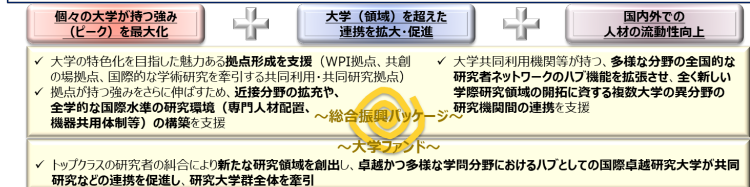
科学技術・イノベーションへの投資を通じ、社会課題を経済成長のエンジンへと転換し、持続的な成長を実現する。(中略)

イノベーションの持続的な創出に向け、国際的な競争環境下で、**多様で厚みのある研究大学群を形成**しつつ、世界最高水準の研究大学を実現する。我が国全体の研究力向上を牽引する**国際卓越研究大学の選定**を着実に進めるとともに、戦略的な自律経営が可能となるよう**必要な規制改革等を早期に実行**する。同大学と経営リソースの拡張・戦略的活用や研究者等のキャリア形成面を含め**相乗的・相補的に連携した車の両輪**として、**地域の中核・特色ある研究大学の多様なミッションの実現に向けた抜本的な機能強化**を図る。

イノベーションの源泉である優秀な若者が**博士を志す環境を実現**する。博士課程学生の処遇向上、挑戦的な研究に専念できる環境の確保、博士号取得者が産業界等を含め幅広く活躍できるキャリアパス整備等、魅力的な展望が描けるよう総合的な支援を一層強化する。(後略)

## 日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成 (研究大学に対する組織支援策の全体像)

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築することが必要





# (参考) 第11回大学研究力強化委員会での主な御意見について

## ○流動性が高く開かれた持続可能な研究環境／知の基盤を底支えする高度専門人材を育む研究環境

- ✓ 若手の採用や安定的なポジションがこれからもっと重要になるのでは。各大学の若手の採用を後押しするとともに、若手研究者にとって魅力的な政策となっているかを意見交換する必要がある。
- ✓ 大学のビジョンを地域に発信する、世界に発信するということが重要。研究者自身がありたい研究者像を実現できる大学を見つけることや、大学と研究者のマッチング、人材獲得や人材の流動性という意味でも意味がある。
- ✓ 地域中核・特色ある研究大学と国際卓越研究大学との連動というのは非常に大きなポイント。人材流動性の観点も踏まえ、例えば、研究機関間の橋渡しをするURAの機能強化など、研究機関間の連携を促進させる制度が必要。
- ✓ 単なる連携ではなくて、人材の共有や教育の共有、共同研究の実施など実のある連携をすることで世界に追いつける。
- ✓ 社会との共創も社会課題の解決も多様性が重要。

## ○機動的な先行投資や安定的な業務運営の実現／自立型経営組織への転換

- ✓ 大学が大きく変わって成長するきっかけとして、資金が必要となるという考え方は良いが、どのように調達して外からの力を得ていくかというところを真剣に考えて実行していかないと、表面的な評価になってしまうのではないか。
- ✓ 大学が中心ではなく、中心に社会課題をおき、大学はその課題を解決するプラットフォームになっていくことが必要。その際、地域を含むステークホルダーとのコミュニケーションと合意形成が大事。
- ✓ 経営のマネジメントとして、いかに大学自身が先の見える力を養うか、そこに向けて何をやっていくかという企画設計能力を高めていかないと、いわゆるグローバルには対抗できない。
- ✓ 企業ではいかに社会に認知されて、ブランド力を醸成・発信し、魅力的に選ばれる企業になっているか、あらゆるステークホルダーに対して、選ばれる企業になっていかないと、もう存続できない。大学についても組織力の変革が重要。
- ✓ 市民の理解を得ていくためには国内広報、研究力を牽引する研究大学群の一つになっていくためには、世界に向けた国際広報が重要となる。先端分野への投資も重要だが、それと同じくらい事務や広報の能力は大事ではないか。

# 研究環境の改善（研究大学強化促進事業における取組例）



## URA体制の整備と活動実績

### URAが主導する国際研究ネットワークの構築

URAがプログラムコーディネーターとなり、世界トップクラスの研究者を招へいし、約3ヶ月程度の集中的議論を行う訪問滞在型の研究プログラム「知のフォーラム」を実施。若手研究者や大学院生が世界の第一線級の研究者と身近に触れ合う環境を醸成し**国際社会を先導する指導的グローバル人材の育成に取り組んでいる。**（東北大学）



### 日本最大級のURA体制による切れ目ない支援

多様な業務に効果的・効率的に対応するために、約50名規模のURAを一元化した組織を構築。全学の組織横断的なハブ機能をもつことにより、**情報を集約し研究力強化施策を企画・立案**するとともに、**研究プロジェクトの企画から成果発信までを戦略的にサポート。**（京都大学）



### URAの分析力等を活かした戦略的な取組

欧州中心に強いコネクションを持つURAによる企画・調整の結果、欧州中心に多数のパートナー機関を獲得し、国際研究拠点形成プログラムの立ち上げに成功。また**URAによる分析に基づき、「光合成」、「量子科学」、「超電導」の3研究領域を設定して重点支援**（研究者の重点配置等）を実施。（岡山大学）



## 国際共同研究・異分野融合研究の推進

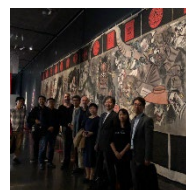
### 異分野融合研究の推進

URAが中心となって「Tokyo Tech Collabo Maker」や学内ファンドによる支援等に取り組み**学内における融合研究を推進し28件の異分野融合研究を創出**するとともに、四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム発足により、工学、医学、法学、民俗学といった様々な専門的な見地から多角的な議論の場を形成した。（東京工業大学）



### 「研究の事業化」・「国際研究大学」の実現

英・バーミンガム大学との研究連携プログラムにおいて、URAが中心となり事前調査から成果公開まで一貫通貫の支援を実施。**得られたノウハウをモデル化して他の海外大学との共同研究に展開。**また国際研究大学としての地位確立の担い手となる**中堅・若手研究者をトップダウンで選定し、重点的に支援**を行うプログラムについて、URAが研究計画の設計段階から関与。（早稲田大学）



### 組織を越えた新たな共創環境の構築

URAの研究支援活動をDX化するためのプラットフォームを幹事機関として研究大学コンソーシアム参画機関と協力して整備。これにより**研究者情報やURA間で共有し、分野や機関を越えた共同研究の創出が出来る場を提供する我が国の研究大学等の共創環境を構築。**（自然科学研究機構）



## 若手支援及びダイバーシティ促進に係る取組

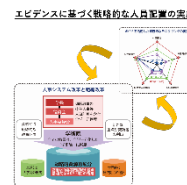
### 寄附金等を活用した若手研究者等の育成

産業界や各種団体などからの**寄附金等を活用**し世界最高水準の学術研究を推進する国際的に**卓越した若手研究者を雇用・育成する基盤**として高等共創研究院を設置。若手研究者の育成とともに、**卓越した女性研究者の活躍基盤**としても機能。（大阪大学）



### Eビデンスに基づく戦略的な人員配置の実施

毎年度教員措置方針を定め、**若手教員、女性教員、外国人教員の採用を促進する人事にポイントを重点配分**している。また**教育・研究の両面で測る独自の指標に基づき人員配置**を実施することで若手教員の雇用・育成を推進。（広島大学）



# 創発的研究支援事業における研究環境改善の好事例

## ★ 独立支援

### ○ ポスト確保支援

- ・創発採択を機に昇格（千葉大学・東京大学・神戸大学・鹿児島大学 等）
- ・若手研究者の昇任枠を拡充（熊本大学）
- ・創発採択を機にテニユアのポストに移行（岐阜大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・テニユアトラック審査期間を短縮（広島大学）
- ・所属分野の廃止や、部局で創発研究者の雇用財源を確保できなくなった場合にも本部がその人件費を補填（東京医科歯科大学、名古屋大学）

## ★ 研究時間確保に向けた配慮

### ○ 学内事務の減免

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の学内事務負担の軽減を図るよう指示（千葉大学・長岡技術科学大学・京都大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・創発研究者の事務負担を軽減し研究時間を確保するために事務補佐員の人件費を支給（群馬大学）

## ★ 研究加速に向けた支援

### ○ 人件費支援

- ・創発研究者が雇用するポスドクや学術研究支援員の人件費を支給（東京大学・電気通信大学・横浜市立大学・北陸先端科学技術大学院大学・大阪公立大学 等）

### ○ 研究スタートアップ支援

- ・創発研究者にスタートアップ資金を支給（北海道大学・群馬大学・山梨大学・徳島大学・高知工科大学 等）

### ○ 研究スペースの優先的使用や共同設備利用料金減免・利用料支給

- ・創発研究者への研究スペースの優先提供（岐阜大学・豊橋技術科学大学・関西医科大学・徳島大学・小山工業高等専門学校 等）
- ・創発研究者の共用設備利用料を学内規定料金よりも安価に設定/利用料補填（北海道大学・東北大学・東京医科歯科大学・東京工業大学・九州大学 等）

### ○ PI人件費利用時の研究費補填

- ・PI人件費を支出した創発研究者に対し、同額の研究費を支給（芝浦工業大学）

### ○ 学生配属の配慮

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の研究室に学生を配属する際に配慮するよう指示（山形大学）

### ○ URA伴走支援

- ・創発研究者に担当URAを優先的に配置（芝浦工業大学）

# 創発的研究支援事業における研究環境改善の好事例

## ★その他、研究環境改善や研究モチベーション向上に向けた支援 ←

### ○称号の付与

- ・創発研究者に特別の称号を付与（東北大学・山形大学・京都大学・神戸大学 等）

### ○創発研究者同士の交流創出

- ・創発研究者同士や創発研究者及び創発応募予定者等が共同研究や情報交換を行うための資金・場所を提供（筑波大学・電気通信大学・東京工業大学・名古屋大学・熊本大学 等）

### ○学長等執行部との面談機会の創出

- ・創発研究者が学長等執行部に研究環境について直接意見具申できる機会を設定（東京慈恵会医科大学・金沢大学・静岡大学・名古屋市立大学・奈良先端科学技術大学院大学・山口大学・高エネルギー加速器研究機構 等）

### ○創発研究者を含む研究者への研究環境改善のためのアンケート

- ・創発研究者を含む全研究者を対象に研究環境改善のためのアンケートを実施（筑波大学）



## 創発的研究支援事業

*Fusion Oriented REsearch for disruptive Science and Technology*

※研究機関名は文部科学省 学校コード順に記載

※全学的な取組と部局単位の取組が混在することに留意



# 大学自身の取組の強化に向けた具体策①

- 個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自性を発揮し、自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、**重層的な支援策をメニューとして分かりやすく可視化するとともに、予見可能性を向上**
- 大学のミッション実現に向け、基盤的経費と各種支援策とを連動させ、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進
- **全学的な研究マネジメント体制の構築**（URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の高度な専門職人材を含む）や**研究の独自性・競争力の向上**を通じて、**大学の戦略的な経営を強化し、新たな価値創造を推進**

## 今後の取組の方向性

### ①魅力ある拠点形成による大学の特色化（機能強化）

- 「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」を通じて、**多様性に富んだ国際的な融合研究拠点形成**を計画的・継続的に推進
- 「共創の場形成支援プログラム」を通じて、自立的・持続的な産学官共創拠点(本格型)の形成を促進していくとともに、本格型へのステップアップ(育成型)の支援を充実。**社会変革を推進していくための産学官共創拠点の形成**を支援
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との戦略的な連携も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップを実現できる環境整備を支援する事業として、**「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設**

### ②大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化

- 「**研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン**」の提示により、研究設備や技術職員等専門職人材などの研究基盤を、各大学自身が全学的な研究マネジメントの一環として位置づけた上、研究力強化に向けて、戦略的な運営を促進
  - 研究動向や諸外国の状況を踏まえ、全国的な研究基盤の整備の観点から、**最先端の中規模研究設備群※を重点設備として整備**するとともに、研究設備の継続的・効果的な運用を行うための組織的な体制整備を戦略的に推進
- ※最先端中規模研究設備の例：クライオ電子顕微鏡、核磁気共鳴装置、高分解能電子顕微鏡、電子線描画装置、次世代シーケンサー等
- 「創発的研究支援事業」の採択研究者に対する環境改善の取組実績や今後の研究力強化の取組を踏まえ、所属機関(全国約100機関)を対象に、**研究時間確保など研究者目線で積極的かつ秀でた支援を行った機関に支援**



# 大学自身の取組の強化に向けた具体策②

- 個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自性を発揮し、自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、**重層的な支援策をメニューとして分かりやすく可視化するとともに、予見可能性を向上**
- 大学のミッション実現に向け、基盤的経費と各種支援策とを連動させ、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進
- **全学的な研究マネジメント体制の構築**（URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の高度な専門職人材を含む）や**研究の独自性・競争力の向上**を通じて、**大学の戦略的な経営を強化し、新たな価値創造を推進**

## 今後の取組の方向性

### ②大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化（続）

- 国立大学法人運営費交付金(**教育研究組織改革分**)では、教育研究組織・教育研究支援組織を核とした各大学の強み・特色ある研究分野の伸張や、教育研究基盤機能の強化を含めた全学的な観点からの研究マネジメント体制の強化を奨励
- 「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ2 (**特色ある高度な研究の展開**)において、大学等の強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開に向け、全学的な研究力向上に係る学内計画(人材活用、URA等の確保、研究環境の改善を含む)の策定を評価項目として設定
- 地域や産業界等との共創の場となる「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」の実現を目指した大学等の**戦略的・計画的なキャンパス整備を推進**

### ③組織間連携・分野融合による研究力の底上げ（連携すること自体が目的ではなく、大学ごとに「何を強化するために、学内では何が不足していて、それをどこと連携して補うと強くなれるのか」といった明確な戦略性が不可欠であることに留意）

- 国際卓越研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、全国の国公私立大学等の連携を強化することにより、特に**若手人材の流動性向上**※や**共同研究の促進、リソースの共有**等を図り、我が国全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築
- ※クロスアポイントメント制度も活用
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、**他大学との戦略的な連携**も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップを実現できる環境整備を支援する事業として、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設(再掲)
  - 大学の研究力向上に貢献することを大きな使命とする**共同利用・共同研究体制**について、国際的な動向や研究DXの進展を的確に踏まえつつ、アカデミア先導型の学際研究領域の形成・開拓を推進するなど、大学の枠を超えた我が国全体の英知の結集を促進

諸外国に比べ研究力が相対的に低迷する現状を一刻も早く打破するため、  
**研究「人材」、「資金」、「環境」の改革を、「大学改革」と一体的に展開**

日本の研究者を  
取り巻く主な課題

- ・博士課程への進学者数の減少
- ・社会のニーズに応える質の高い博士人材の育成
- ・研究者ポストの低調な流動性と不安定性
- ・研究マネジメント等を担う人材の育成

- ・若手が自立的研究を実施するための安定的資金の確保が課題
- ・新たな研究分野への挑戦が不足
- ・資金の書類様式・手続きが煩雑

- ・研究に充てる時間割合が減少
- ・研究組織内外の設備・機器等の共用や中長期的・計画的な整備更新の遅れ
- ・研究基盤の運営を支える技術専門人材の育成

研究力向上に資する基盤的な力の更なる強化

研究人材の改革

若手研究者の「安定」と「自立」の確保、「多様なキャリアパス」による「流動性」「国際性」の促進などを通じ好循環を実現し、研究者をより魅力ある職に

研究資金の改革

すそ野の広い富士山型の研究資金体制を構築し、「多様性」を確保しつつ、「挑戦的」かつ「卓越」した世界水準の研究を支援

研究環境の改革

研究室単位を超えて研究環境の向上を図る「ラボ改革」を通じ研究効率を最大化し、より自由に研究に打ち込める環境を実現

大学改革

研究力向上につながる  
ガバナンスの強化・  
マネジメント改革の推進

政府全体の目標・取組とも連携

- Society5.0
- SDG s
- 統合イノベーション戦略
- AI戦略
- バイオ戦略
- 量子戦略 等

我が国の研究力の国際的地位をV字回復

中長期的に反映・連携

- 第6期科学技術基本計画
- 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン 等

国際頭脳循環の中心となる世界トップレベルの研究力を実現し、絶えず新たなイノベーションを生み続ける社会へ

継続した連携

- 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
- 日本学術会議
- 大学改革支援産学官フォーラム（仮称）
- 経団連、国公私立大学の関係団体 等

産学官を巻き込んだ不断の見直し  
⇒ 進化し続けるプラン



## (参考) Jリーグ百年構想

- あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること。
- サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること。
- 「観る」「する」「参加する」。  
スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること。



誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境が整ってはじめて、豊かなスポーツ文化は育まれます。そのためには、生活圏内にスポーツを楽しむ場が必要となります。

そこには、緑の芝生におおわれた広場やアリーナやクラブハウスがあります。

誰もが、年齢、体力、技能、目的に応じて、優れたコーチのもとで、好きなスポーツを楽しみます。「する」「見る」「支える」、スポーツの楽しみ方も人それぞれです。

世代を超えたふれあいの輪も広がります。

自分が住む町に「地域に根ざしたスポーツクラブ」があれば、こんなスポーツライフを誰もが楽しむことができます。

このような Jリーグの理念を分かりやすく訴求するために、Jリーグは「Jリーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ。」というスローガンを掲げ、「地域に根ざしたスポーツクラブ」を核としたスポーツ文化の振興活動に取り組んでいます。



# (参考) 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する具体的な基準

## ① 国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力

目指すべき姿の実現に向けて、**世界の学術研究ネットワークを牽引し**、新たな研究領域やイノベーションを常に創出し続けるマネジメント・システムを構築するため、**既存の制度に縛られず、学内外の叡智を結集して取組を進めていく計画**であること。特に、次に掲げるような**研究上のポテンシャルを向上し続ける方策**が示されていること。

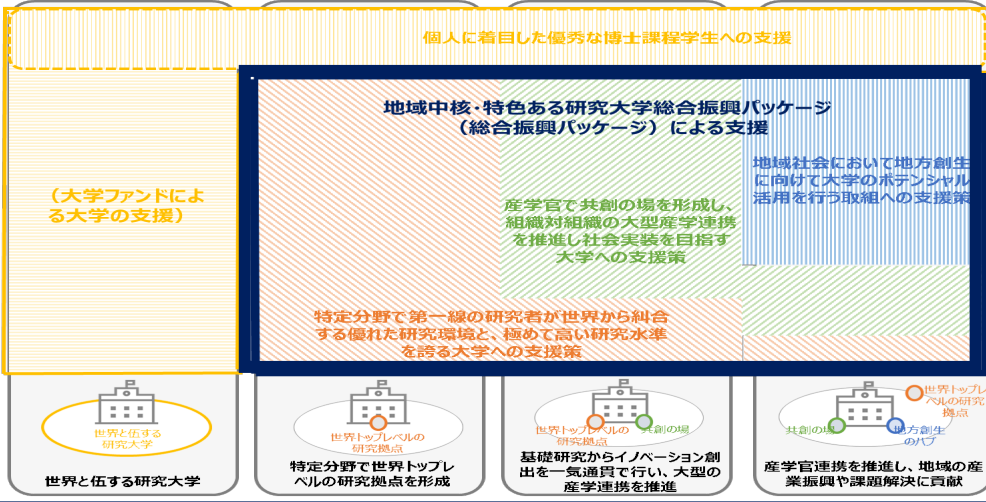
- ✓ 世界トップクラスの研究者や国内外の優秀な博士課程学生の獲得や活躍の推進
- ✓ ジェンダーギャップの是正やアカデミック・インブリーディング（大学人事において自校出身者を優先的に教員として採用する慣行）の抑制を含むダイバーシティの担保
- ✓ 先進性の高い、分野を横断したカリキュラム・デザインに基づく博士課程プログラムの構築
- ✓ 世界トップクラスの研究者・学生が糾合する新しい研究領域の創出（World-class Critical Mass の形成）
- ✓ 新しい価値の創造を目指した分野横断的な対話や結合を可能とする多様な学問分野の展開
- ✓ 若手研究者が独立し、研究室の縦割りを越えて触発し合い、活躍できる場の提供やモチベーションを喚起する業績評価
- ✓ URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の専門職人材の積極登用、マネジメント業務などのエフォートの戦略的配分などによる、卓越した研究成果の創出に必要な研究時間の確保のための環境整備
- ✓ グローバルに活動を展開する大学を支える事務職員の採用や意識・資質の向上
- ✓ 世界最高水準の研究大学にふさわしい研究インテグリティの確保（大学の自律的な安全保障管理計画の策定等）
- ✓ AI技術、バイオテクノロジーや量子技術などの戦略重点分野や新興・融合分野への取組、新たな萌芽的挑戦

# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (改定)

令和5年2月 総合科学技術・イノベーション会議決定

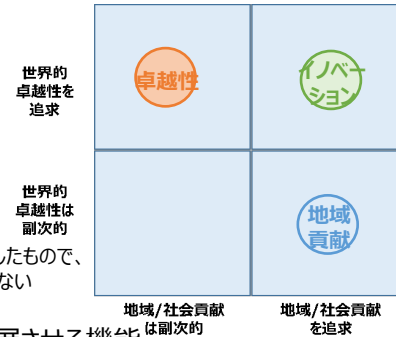
## □ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



## □ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解



※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない

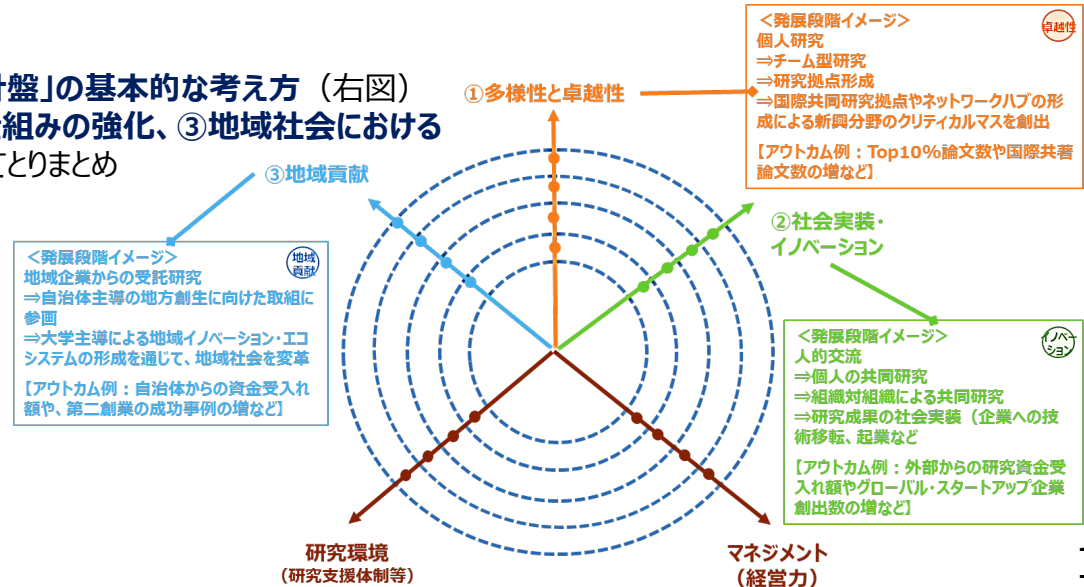
- 卓越性**
  - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
  - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
- イノベーション**
  - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
  - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
- 地域貢献**
  - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
  - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能

## □ 総合振興パッケージの狙い (目的)

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方 (右図) を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

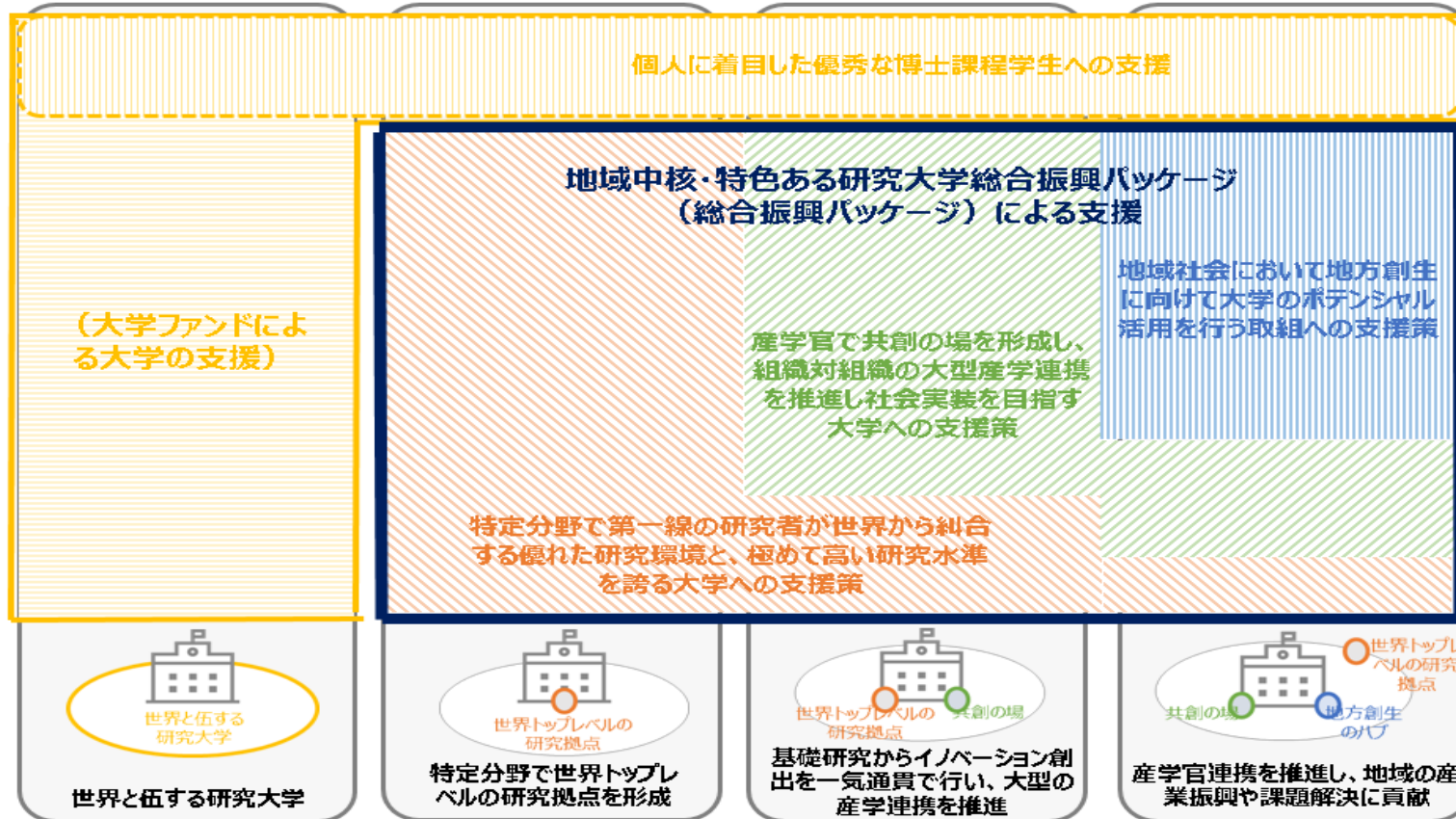
地域の中核大学等が**地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



# 総合振興パッケージで目指す大学像（総論）

## □ 総合振興パッケージの位置づけと目指す大学像

- **研究活動を核とした大学に求められる機能について**、自らのミッションや特色に応じた**ポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上**させることで、新たな価値創造の源泉となる**「知」と「人材」**を創出、輩出し続ける大学



（参考）研究大学とは？

高等教育機関のうち特に、（複数の分野において）多様な社会で活躍できる博士人材を輩出する機能を持ち大学院教育における研究活動を重視しており、研究基盤を維持し、多くの研究者や博士課程学生が在籍している大学

（参考）カーネギー大学分類：米国カーネギー教育振興財団が出資し設立した、民間の高等教育政策審議機関であるカーネギー高等教育審議会が、高等教育の現状分析と課題析出に資するために作成したものが始まりであり、学位授与数や専攻の多様性等により、Doctoral Universities, Master's Colleges and Universities, Baccalaureate Colleges, Associate's Colleges, Special Focus Institutions 等に大別

# 総合振興パッケージの目的

□ 総合振興パッケージは、

- ✓ 研究活動を核として大学の力を向上させる際に求められる『機能』の観点から、**目指す大学像に向けて大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方**を示しつつ、重層的に展開される各府省の事業を1つの政策パッケージとしてとりまとめることで、
- ✓ 大学が、**自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略の下、選択的かつ、発展段階に応じて、それぞれの機能をさらに強化し易く**することを目的としたもの

